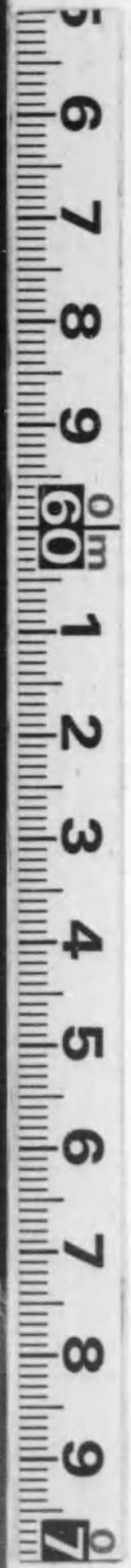


344

402

カイザー維業科學研究所設立ノ顛末

農商務省商工局



始



344-402



本調書ハ文部省留學生理學士田丸節郎氏ノ  
 調査ニ係リ京都帝國大學總長澤柳政太郎氏  
 ヲリ送付セラレタルモノ、頗ル有益ナルヲ以  
 テ今回澤柳總長ノ承諾ヲ得、印刷シタルモノ  
 ナリ

大正三年四月

農商務省商工局

大正  
 3. 5. 2  
 寄贈

寄贈本

目次

第一 緒言……………一

第二 研究所設立趣意書……………一

第三 研究所設立趣意書配付ニ至ルマテノ徑路……………八

第四 設立趣意書配付ヨリ設立ニ至ルマテノ徑過……………九

第五 維廉協會ノ事業竝ニ現狀……………一

第六 科學獎勵維廉協會規則……………一七

第七 カイザー、ギルヘルム物理化學研究所規程……………一八

# カイザー維廉科學研究所設立ノ顛末

Kaiser Wilhelm Forschungsinstitut

## 第一 緒言

カイザー維廉化學研究所類似ノ研究所設立ノ企畫タルヤ甚タ古シ物理ニアリテハ一八八四年「ゼルナトリジーマンス」之ヲ唱導シ古ク既ニ帝國物理學研究所 (Physikalisch Technische Reichsanstalt) ノ設立ヲ見タリ化學研究所設立ノ爲ニ朝野ノ有志相集マリテ具體的ニ協議會ヲ開キシハ一九〇五年ニ始マル次テ宣言書趣意書ノ配布トナリ提案規則ノ草案トナリ更ニ一九一二年最初ノ研究所開所ニ至ルマテ多少ノ屈折アリ變革アリ

## 第二 研究所設立趣意書

設立趣意書ニ就テ記スルニ先チ獨逸ニ於ケル化學工業竝ニ純正化學ノ發展ニ關シテ其ノ一斑ヲ知ルニアラサレハ設立趣意書ヲ了解スルコト十分ナル能ハス十九世紀ノ初メニ至ルマテ歐洲文化ノ中心ハ專ラ英佛ニアリテ獨逸ハ專ラ佛國ヲ模倣スルヲ以テ足レリトセリ史家獨逸ニ於ケル化學工業竝ニ純正化

學ノ勃興シテ隆盛ヲ極ハムルニ至リシ所以ヲ究メテ專ラ之ヲ「リービヒ」一派ノ效ニ歸ス一八二四年「リービヒ」氏巴里留學ヨリ歸リ「ギーセン」大學ニ教授タルニ及ヒ氏ハ單ニ學生ニ化學ヲ教授シ化學的知識ヲ注入スルヲ以テ満足セス更ニ學生ヲ其共同研究者トナシ日夜相共ニ研究ニ從事シ學生ヲシテ其研究方法ヲ學ハシメ研究ニ親シマシメ慣レシメ研究的精神アル獨立ノ研究者トナルニ及ンテ之ヲ卒業者トシテ世ニ出シタリ獨立ノ研究者トシテ大學ヨリ放タタル卒業生ノ既設工業會社ニ入ルモノハ工場ニ於ケル操作、製法其他耳目ニ觸ルルモノヲ以テ悉ク研究ノ對象トナシ微ヲ穿チ細ヲ挫キ舊法ヲ改良シ新法ヲ發見シテ餘ス所ナシ人造アリザリン人造藍其他ノ人造染料藥劑人造香料等ヲ見ハ思ヒ半ニ過キン此式ノ教育ハ獨逸ニ於テ各大學ニ廣ク行ハレ以テ今日ニ至リ化學工業ノ勃興トナリ世界ノ市場ヲ支配スルニ至レリ

獨逸ニ於ケル化學研究ノ盛大タルコト今茲ニ詳述スルノ要ナカルヘシ然レトモ獨逸ノ誇リトスル所ハ其化學研究ノ盛大ナルノ事實ニアラズ又其研究成果ノ顯著ナルノ事實ニモアラスシテ却テ研究的精神ニ滿チタル技師學者並ニ獨立研究者ノ至ル所ニ充滿シ居ルノ事實ナリ此ノ如キ研究者ノ大軍ヲ擁シテ其成績ノ擧ラサランコトヲ欲スルモ得ヘケンヤ要ハ此研究者ノ多數ナルニ比シテ研究成果ノ果シテ大ニ擧レリヤ否ヤニアリ有機化學ノ大家「エミルリフイツシャー」氏、物理化學ノ大家「ネルンスト」氏等之ヲ否定シテ曰ク近來ノ大發見タル「ラヂウム」並ニ類似ノ元素ノ發見、化學者ノ夢ヲ破リタル

元素轉化ノ發見乃至空氣中ニ存在スル多數稀元素ノ發見最モ精密ニシテ信賴スヘキ化學量論的研究等皆英佛米ノ産ニシテ獨逸ハ之ニ與ルコト能ハサリキ之レ獨逸ノ研究機關ニ缺陷アルカ爲ナリ「リービツヒ」ノ流レヲ汲メル學風ハ研究者ヲ育テ學者ヲ作ルニ適スレトモ既ニ作ラレタル學者研究者ハ未ダ靜ニ籠リテ自由ニ手腕ヲ揮フヘキ完備セル研究所ヲ有セス大學ノ化學教至ニハ日ニ進ム學界ニ雁行シテ設備ノ完全ナルコトヲ期待スルコト能ハス大學ノ教授ハ育英ノ爲ニ其時ノ過半ヲ失ヒ其子弟ニ課スル研究題目モ子弟ノ指導ニ適スルコトヲ要シ之ニ要スル時ト金ト勞力ト皆定マレル範圍内ニアラサルヘカラス究氣ヨリ取レル窒素ノ比重化學的ニ得ラレタル窒素ニ比シテ其第四位ノ桁ニ於テ少シク異ナルコトヲ知リテモ此恆數ノ細微ノ差ヲ悠然ト研究シ居ルカ如キハ學生ノ指導ニ忙シキ大學ノ教室ニ望ムヘキニアラス從テ「ヘリウム」モ「ネオン」モ乃至ハ「アルゴン」「クリプトン」「キセノン」モ獨逸ニ於テ發見セラルルニハ至ラス「ピッチブレンド」ナル礦石カ寫眞板ニ感光スルコトヲ知リテモ「キユーリー」夫婦ノ無限ノ忍耐ト勞力ト時間トヲ費スニアラサレハ「ラヂウム」モ發見セラルルニハ至ラス

凡ソ今日科學並ニ工業ノ進歩日ニ日ニ盛ナル所以ノモノ皆研究者辛勞ノ賜ナラサルハナク研究ナクシテ此ノ進歩アルコトナシ即チ其進歩ヲ贏チ得ント欲セハ研究者ヲシテ研究セシムルノ外ナク即チ研究者ニ授業試驗其他ノ義務重荷ヲ課セス只管研究ニ専心ナラシメサルヘカラス換言セハ研究ノ爲メノ研

究所ヲ設立スルコトヲ要スト

二氏ハ更ニ言ヲ進メテ曰ク然ラハ研究所ハ如何ナル性質ヲ有スヘキカ多クノ研究者ヲ役人トスル研究所ハ沈滞ニ陥リ易キノ弊アリ實社會ノ要求ハ時ト共ニ速ニ變シ學界ノ見解モ時ト共ニ變スルカ故ニ常ニ一定ノ人々カ固マリテ流動セサルトキハ實際ノ役ニ立ツコト少クナルノ悞アリ之ニ對スル内務省案ハ位置ノ保障ヲ受クル役人ヲ主任ニ限リ他ノ研究員ハ成ルヘク新陳代謝セシムヘク大學ノ私講師、工場ノ技師等ヲシテ自由ニ研究セシムヘシ思フニ各方面ノ學者研究者ト連絡ヲ取り特ニ工業ノ實際家ト意見ノ交換ヲナスハ各方面ノ研究ヲ促シ之ヲ進ムルニ最モ有利ナル方法ノ一ナリ特ニ各方面ノ工業家ハ各一方ニ偏シ直接ニ自己ニ利益ヲ齎ラササルモノハ措テ顧ミサルカ故ニ之等ノ知識ヲ綜合シ研究ニ資スルハ重要ナル一仕事ナラサルヘカラス而シテ此ノ如キハ唯研究員ノ新陳代謝ニヨリテノミ目的ヲ達スルコトヲ得ヘク以テ沈滞ヲ防キ且ツ各方面ノ刺激ヲ確實ニシ得ヘシ此故ニ所長又ハ主任ハ研究ノ方面ニ留意シ其カ適當ナル方面ニ行ハレテ遺漏ナキヲ期スヘシ此ノ如キ自由ナル活動ハ會計検査等繁鎖ナル拘束ナク自由ニ迅速ニ金錢ノ支出ヲナシ得ルニアラサレハ十分遺憾ナキコト能ハス是レ官省ヲ離レ寄附金ニヨリト便トスル所以ナリ(尙右趣意書ノ原文ニハ差當リ解決ヲ要スヘキ化學並ニ化學工業ノ諸問題ヲ列擧シテ讀者ノ注意ヲ惹キ居レトモ餘リニ特殊ニ過クルヲ以テ之カ譯出ヲ廢セリ)既知ノ知識ヲ明ニシ既ニ公表セラレタル論文又ハセラレツツアル仕事、重要ナル仕事ニ用ヒラレタル

裝置又製品ヲ集メ特ニ研究ニ資スヘキ凡テノ書籍各國ニ發行セラレル雜誌論文類ヲ蒐集シテ國內ニ於ケル文書ノ中心點トナリ公衆ノ使用ニ供スルハ當研究所ノ主要ナル一役目ナラサルヘカラス此ノ如キ研究所ヲ設立シ並ニ維持センニハ固ヨリ少ナラサル資金ヲ要ス然レトモ試ミニ當國ニ於ケル工業ノ發達セル所以ヲ見、其貧弱ナリシ當國カ富強ニ進メル所以ヲ考ヘ世界ノ競争ニ弱者タラントスルコトヲ思ハバ其得ル所ノ大ナルニ比シテ更ニ之ヲ拒避スヘキノ理アルナシ更ニ馬獅子會社、エルバーフェルド染料會社等大ナル化學工業會社カ皆新研究ノ爲ニ年々幾十萬ノ財ヲ消費シテ惜ムナキ所以ヲ考フレハ其間ノ關係瞭々トシテ火ヲ見ルヨリモ明カナルヘキナリ何トナレハ營利ヲ目的トシ打算ニ銳キ商事會社ニ於テハ出費ヲツクナヒテ更ニ利益ヲ來スニアラサレハ此ノ如キ巨萬ノ財ヲ支出セサルヘキヲ以テナリ特ニ右大工場大會社ト言ハス今日ノ如キ化學工業ノ改良發展ハ實ニ直接ニ新研究ノ營利上必要ナルコトヲ示スモノニシテ今日ニ於テハ小工場小會社ニ於テモ實驗所ノ設備ナキハナク新研究ニ力ヲ注カサルハナキナリカクノ如クシテ科學ハ工業ニ入り發明ノ舞臺ハ大學ヨリ工場ニ移リ各會社ハ特別任務ヲ帶ヒテ工業ノ望樓ニ立チ凡テノ科學上工業上特許上ノ發刊物ヲ漁リ學會ニ出席シ注視シ傾聽シ暫時モ注意ヲ忽ニセサルノミナラス自ラ工場ノ研究室ニ於テ何カ新シキ著想ヲ得ント實驗ヲ怠ラサルナリ是レ新研究ノ營利上缺クヘカラサルコトヲ確證スルモノニアラスシテ何ゾヤ既ニ研究ハ營利ト反セストセハ十億ヲ超ユル化學工業品ニ對シテ豈數萬ノ支出ヲ惜ムノ理アラシヤ萬々一平和

破裂ノ場合ノ爲ニ常ニ巨萬ノ財ヲ武装ノ爲ニ消費シテ顧ミサルニ思ヒ至ラハ此ノ如キ生産的ニシテ國家ノ富強ヲ來シ人類ノ幸福ヲ増進スヘキ計畫ニ對シテ毛頭モ惜シムヘキ所以ヲ見サルナリト  
右ハ化學ノ大家ニシテ先覺ノ士タル「エミルリフイジャー」「ネルンスト」「オストヴルド」ノ三氏カ工業界ニ配付シタル研究所設立趣意書ノ概略ニシテ此ノ運動ノ爲メニ一法人團ヲ組織シ左ノ規則ヲ設ケ  
タリ

第一條 本會ハ「Verein Chemische Reichsanstalt」ト稱シ柏林ニ置ク

第二條 略

第三條 本會々員タルコトヲ得ルモノハ個人、官衙、商社、組合トス(下略)

第四條 通常會員ハ會費ヲ納ムルノ義務アリ會費ハ一時金又ハ年金ヲ以テ納メラル年金ハ少クモ一千元ヲ限度トシ此ニ代フルニ各千馬ニ對シ一時金少クモ二萬五千馬ヲ納メテ年金ニ代フルコトヲ得年金ハ其年ノ二月一日ニ拂込ムヘシ通常會員ハ其會員タル年限ノ長短ニ關セス入會申込ト共テ大會金トシテ年額ノ五倍ヲ拂込ムノ義務ヲ負フ

右ハ一時ニ拂込ムトモ又ハ年々年額ツツ五箇年間拂込ムトモ當人ノ勝手タリ何レニシテモ之レハ始メ五箇年ノ會費ト相殺ニス

第五條 總會ハ委員會ノ建言ニヨリ四分ノ三ノ多數ヲ以テ終身名譽會員ヲ指名スルコトヲ得名譽會員

ハ會費ヲ拂フコトヲ要セス通常會員ノ權ヲ有ス

第六條 退會ハ下ノ二條ノ場合ニ起ル

A、退會ヲ委員ニ書面ニテ申出ツ退會ハ豫告後二年後ニ始メテ有效ナリ

B、始メ警告シ次ニ書留郵便ヲ以テ警告スルモ尙當年ノ會費ヲ支拂ハサル場合

C、(B)ノ場合ノ退會者ハ警告セル年ノ年額ト次ノ二箇年分ノ年額ヲ負擔ス

第七條 第八條 略

第九條 委員會ハ少クモ二十名多クモ三十名ノ委員ヨリ成ル少クモ十名多クモ二十名ハ總會ノ議決ニ

ヨリ會員中ヨリ選ハル此外十名ノ委員ハ純正化學ノ代表的専門學者又ハ當該官吏ニシテ必スシモ會員タルコトヲ要セス(下略)

第十條 第十一條 第十二條 第十三條 第十四條 略

第十五條 總會ノ議長ハ委員會ノ議長之ニ任ス

通常會員ハ年額一千馬又ハ之ニ相當スル一時金拂込ニ對シテ一發言投票權ヲ得然レトモ一會員ノ口數十口ヲ超ユルコトヲ得ス(下略)

第十六條 第十七條 第十八條 略

第十九條 解散ハ會員總數ノ四分ノ三以上ノ多數決ニヨリ總會ニ於テ決セラル議決ニ加ハレル會員數

之ニ滿タス議決スルコト能ハサルトキハ解散問題ヲ議決スル爲ニ殊ニ召集セラレタル臨時總會ニ於テ議決セラル而シテ此總會ノ議決ハ總會ニ於テ全會員數ノ少クモ三分ノ二以上議決ニ加ハルニアラサレハ無効ナリ而シテ議決ハ議決ニ加ハレル會員數ノ四分ノ三以上ノ多數決ニヨリテ有效トナル解散ノ場合ニハ總會ハ本會ノ財産ヲ化學研究所ニ渡ス、研究所存在セサルトキハ化學獎勵ノ爲メノ他ノ使途ニ充ツ

### 第三 研究所設立趣意書配付ニ至ルマテノ徑路

一九〇五年秋「フイツシャヤ」、「ネルンスト」、「オストヴルド」三氏ノ招集ニ應ジテ純正化學並ニ化學工業ノ代表者數十名伯林ニ會シテ運動ノ方法研究所ノ制度等ヲ議ス提案數種アリ

第一案、研究所ニ科學部ト工業部トヲ設ケ科學部ハ拘束ナキ自由ノ研究ヲナシ工業部ハ檢定分析其他ノコトニ任ズ別ニ評議員會ヲ設ケ其年内ニ行ハルヘキ研究題目ノ配布其他ノ案ヲ議ス

第二案、内務省内ニ一課ヲ設ケ學者ヲ聘シ更ニ之ヲ附スルニ科學並ニ工業ヲ代表スル大家ヨリ成ル諮問機關ヲ以テシ研究題目ニ就テ討議シ其必要ナル題目ヲ選ミテ帝國又ハ聯邦若シクハ市町村個人ノ研究所ニ課シ研究セシム費用ハ政府ニ於テ負擔ス即チ研究題目ノ適當ナル配布ヲ司ルヘキ機關ヲ設ケントスルニアリ

右ノ内第二案ハ今日獨逸聯邦ハ既ニ十分多數ノ試驗所研究所ヲ有シ各大學ノ化學教室ト共ニ其數少ナリト云フヘカラス今日ノ缺陷ハ唯研究題目ノ適當ナル配布機關ニアリトノ理由ニ基キ而モ多クノ反對アリテ成立セス其翌年ノ相談會ニ於テ研究所ニ有機、無機、分析及物理化學ノ四部ヲ置キ研究所及所長官舎建築ニ充テ百六十萬馬ヲ支出シ經常費ヲ約二十二萬馬トスルノ議ヲ討議スルヤ伯林アニン染料會社ノ一重役ハ其過少ナルヲ極言シテ曰ク此處ニ居ラルル「エルバーフェルド」染料會社ノ某重役ハ其工場ノミニテ新研究ニ消費スル金額之ニ超ユト言ハル予カ會社ハ更ニ小規模ナレトモ尙且ツ其研究費右ノ額ニ超ユ予ハ少クモ經常費四十萬馬ヲ下ルヘカラサルコトヲ主張セントス更ニ「ミュンヘン」大學ノ一教授モ之ニ和シテ曰ク「ミュンヘン」大學ノ無機化學ノ實驗室ニ一百万馬ヲ要シタリ更ニ完備セル無機化學研究所ヲ得ントセハ更ニ多額ヲ要スヘク尙其上有機分析物理化學等ノ研究所ヲモ設立セントセハ如何テ百六十萬馬ヲ以テ成シ得ヘキヤト而シテ衆議固ヨリ異論アルニアラサレトモ是レ皆寄附金額ニヨリテ定メラルヘキヲ奈何而シテ研究所ニ工業部ヲ設ケ一般物質鑑定其他ヲナスハ既ニ存在スル機關ノ事業ト重複衝突ストノ抗議アリテ是又廢案トナレリ

### 第四 設立趣意書配付ヨリ設立ニ至ルマテノ經過

既ニ設立趣意書ノ配布トナリ有力者ノ勸誘トナリ當局者トノ連絡モ成リ寄附金又漸ク集マル一九〇八



年ニハ會員數四十一、此口數五十八口而シテ内務文部大藏諸當局ト交渉セシ結果政府ハ地所ヲ無償ニテ交附シ文部省ハ所長ヲ伯林大學ノ正教授ニ任シ其俸給ヲ負擔スルコトトナル是レヨリ先皇帝維廉二世ハ私立科學研究所設立ノ企畫ヲ懷キ富豪ト議シテ資金ヲ集メントセラレツツアリ恰モ伯林大學ノ百年祭ニ際シテ之レカ發表演說ヲ試ミラルヤ、「化學研究所設立協會」モ亦之ニ和シ皇帝ノ主裁セラルル「科學獎勵皇帝維廉協會」(Kaiser Wilhelm-Gesellschaft zur Förderung der Wissenschaften)ハ研究所設立協會ノ取リタル方針ヲ是認シ之ニ助力ヲ與フルコトナリ一九一一年十月設立協會ハ其財産約百二十五萬馬ヨリ九十萬馬ヲ支出シ維廉協會ハ之ニ二十萬馬ヲ追加シテ建築費ニ宛ツルコト、シ別ニ銀行家コツベル氏ノ寄附ニカカル「コツベル資金」ヨリ物理化學研究所ノ建築費トシテ約百萬馬ヲ支出シ此年建築ニ著手ス翌一九一二年十月建築竣工シ皇帝臨御シテ開所式ヲ開ケカイザー、ギルヘルム化學研究所ハ獨立セルニ研究所ヨリ成ル一ハ一般化學研究所ニシテ「ベクマン」氏ヲ所長トシ他ハ物理化學研究所ニシテ「ハーバー」氏ヲ所長トス一般化學研究所ハ三層ヨリ成ル大建築物ニシテ下層ハ半バ雜用ニ半バ「ハーン」教授ノ放射能研究室タリ第二階ハ「ギルシテツター」教授ノ有機化學研究所ニシテ第三階ハ圖書室及ヒ「ベクマン」教授ノ一般化學研究所タリ其經常費ハ十二萬ニシテ研究所設立協會ト皇帝維廉協會ト各半額ツツヲ負擔ス内五萬馬ハ物品費タリ「ベクマン」氏ハ政府及維廉協會ヨリ年俸二萬馬ト宏大ナル官舎トヲ受ケ物品費一萬五千馬、助手ニ對スル俸給年額約

一萬一千馬ヲ有シ「ギルシテツター」教授ハ約同額ナル年俸ト物品費一萬五千、助手ニ對スル俸給一萬馬トヲ有ス

物理化學研究所ハ長キ廊下ニテ連絡セル二棟ヨリ成リ本館ハ普通ノ物理化學的研究ニ、別館ハ諸種ノ大ナル機械ヲ用フル實驗ニ使用セラル經常費ハ年額八萬五千馬ニシテ其内五萬馬ハ普魯西政府ノ負擔ニカカリ他ハ「コツベル」氏ノ寄附ニカカル

一般化學研究所ハ約二十名ノ研究者ヲ收容スルニ足リ物理化學研究所ハ約十五名ヲ收容スルニ足ル

### 第五 維廉協會ノ事業並ニ現狀

一九一〇年十月伯林大學百年祭ニ於テ獨逸皇帝ノ發表セル科學研究獎勵會ノ計畫ハ翌年春直チニ實行セラレ科學獎勵皇帝維廉協會 Kaiser Wilhelm Gesellschaft zur Förderung der Wissenschaften ナル法人團トナリテ現ハレタリ即チ一九一一年正月富豪實業家中ノ發起者七十九名相會シ普魯西國文部大臣之カ議長トナリ別項第六ニアル規則案ヲ議定シ皇帝ハ評議員ノ半數ヲ指名シ大會ハ他ノ半數ヲ選舉シ更ニ評議員中ヨリ七名ノ實務委員(Verwaltungs ausschuss)ヲ選ヒ著々其行動ヲ始メタル結果一九一二年三月末日ニハ入會金通常會費臨時寄附利子等ノ收入九百八十三萬三千餘馬ニ上リ同九月末日マデニ入會セル會員數百八十六ヲ數ヘ翌一九一三年三月末日ニ於ケル同年度ノ會費收入約百五十二萬馬、同

十月末ノ現在會員數二百〇一、其他伯林中ノ邸宅ヲ事務所トシテ寄附セントスルモノ、藏書ヲ提供スルモノ等各方面共熱心ナル賛同アリ殊ニ研究所建築ニ際シテハ建築材料、設備、機械、裝置、圖書等ノ寄附擧げテ數フヘカラス富裕ナル資金ニヨリ著々各種ノ研究所ヲ設立シ又ハ特殊ノ研究ヲ補助スルコトヲ得タリ今其重ナル事業ヲ列記シ附スルニ其事業運轉ノ機關ヲ以テス

一、化學研究所。化學研究所ハ維廉協會最初ノ研究所ニシテ其大略ハ既ニ記シタルカ如シ一般化學研究所ノ機關ハ實務委員 (Verwaltungs ausschuss) 事務評議員 (Verwaltungsrat) 及科學評議員 (Wissenschaftlicher Beirat) ノ三ヨリ成リ第一者ハ一般事務管理ヲ司リ五名ノ會員ヨリ成リ内二名ハ研究所設立協會ヨリ、二名ハ維廉協會ヨリ、一名ハ文部大臣ヨリ指名セラレ第二者即チ事務評議員ハ第一者ノ事務處理ヲ検査監督シ且ツ豫算ヲ定ムルコトヲ以テ其ノ任務トシ第一者ニ屬スル者及ヒ研究所設立協會ノ指名スル十名ノ會員、維廉協會ノ指名スル九名ノ會員ヨリ成立ス而シテ第三者即チ科學評議員ハ斯學專門大家ヲ代表スル六名ノ學者並ニ設立協會、維廉協會、「ゴツペル」資金ノ三ツヨリ出セル代表者各二名宛合計十二名ヨリ成ル

物理化學研究所ノ機關ニ就テハ後ニ更ニ述フル所アルヘシ(別項七參照)

二、カイザー、ギルヘルム實驗治療學研究所。竊其他人類ノ不幸ヲ來シ而モ當今尙人力ニテ救濟スルコト能ハサル疾病種々アリ此種ノ研究ヲ進メ人類ノ幸福ヲ増進セシメンカ爲ニ維廉協會ハ前記化學研究所ニ隣シテ一ノ研究所ヲ設立セリ建築設備費五十萬馬經常費七萬五千馬ニシテ所長ニハ「ワッツサーマン」氏ヲ聘シ政府ハ地所ヲ無償ニテ交付シ且ツ所長ヲ名目上伯林大學正教授トナシ其俸給ヲ負擔ス二階立ノ一棟及試驗動物ヲ收容ニ供スル二棟ノ厩ヨリ成ル一九一三年十月之カ開所式ヲ行ヒタリ

三、カイザー、ギルヘルム石炭研究所。「エミル、フイツシャ」氏ノ發意ニヨリ獨逸ニ於ケル主要ナル石炭產地タル「エストフアーレン」ニ石炭並ニ之ニ關聯スル諸種ノ研究ヲ目的トスル「カイザー維廉研究所」ヲ建テントスルヤ其設立地タル「ミュールハイム」市ハ右ノ建築設備費地所悉皆ヲ寄附セシコトヲ申出テタリ右ハ地所ヲ除キ約六七十萬馬ヲ要スヘキ建物ニシテ右ノ維持費ハ石炭工業其他同地方ニ於ケル諸礦山諸會社諸組合ヨリ特ニ此目的ノ爲ニ向フ十年間協會ニ寄附セラルヘキ金額並ニ維廉協會ニアル一般寄附金中ヨリ宛テラレ一九一四年夏開所ノ豫定ナリ此企圖ハ該地方ニ於テ熱心ナル賛同ヲ博シ一九一二年ニハ其維持費トシテ特別寄附金年額十萬馬ニ及ヒ翌一九一三年ニハ年額十三萬二千馬ニ達シ外ニ一時的寄附金四萬馬アルニ至レリ此外ニ維廉協會更ニ一般寄附金中ヨリ年額二萬馬ヲ補助スヘク伯林工科大学教授「フランツリフイツシャ」氏之カ所長ニ聘セラレタリ該研究所ノ機關ハ評議員及委員會ヨリ成リ前者ハ該寄附ニ與レル礦山、會社、組合並ニ維廉協會ヨリ指名セラレタルモノ「デュツセルドル」縣知事、文部大臣代理「ミュールハイム」市代表者ヨ

リ組織セラレ委員會ハ前記評議員、維廉協會ノ代表者寄附者ノ指名ニヨルモノ、「ボン」市及「ドルトモンド」市ニ於ケル礦山監督署長、諸大學ノ代表者礦山組合ノ代表者等ヨリ成ル

四、カイザー、ギルヘルム職業衛生研究所。生理學病理學衛生學等ノ研究獎勵ハ維廉協會ノ夙ニ著眼セル所ナリシカ特ニ實際上工場會社等ニ於ケル職業衛生 (Berufsa. Gewerks Hygiene) 研究ノ必要ヲ認メ特別寄附者アリテ年々二萬馬ヲ此目的ニ支出シ得ルコトトナルヤ協會ハ伯林大學生理學教室主任「ルブナー」教授ノ提案ニヨリ三萬馬ヲ以テ同教室ノ傍ニバラツクテ立テ同教授ヲシテ之カ主任ヲ兼ネシメ研究ヲ指導セシムルコトトナレリ右研究所ヲ大學ニ編入スルコトハ其經常費ノ不十分ナルノ故ヲ以テ文部省ノ容ルル所トナラス爲ニ鐵道經營ノ長官タル普國勞働大臣並鑛山監督ノ長官タル農商務大臣ニ補助ヲ願出テ之レニヨリ此等管轄下ニアル官吏技師職工勞働者ノ衛生ニ資センコトヲ申出テタリ而シテ前者ハ年額一萬馬後者ハ年額五千馬ノ補助ヲ承諾セシヲ以テ一九一四年開所シ得ヘシ

五、ロギニオ生物學研究所。古クヨリス界研究者ニ知ラレタル「ロギニオ生物學研究所」カ其持主ノ死ニヨリテ維持艱難トナリ獨逸聯合學士院カ其維持策ヲ講シツツアルノ狀ニ鑑ミ協會ハ斯學獎勵ノ爲ニ資金ヲ出シテ之ヲ引キ受クルコトニ定メタリ而シテ之ニ要スル費用ハ會員「シヨットレンダー」氏ノ厚意ニヨリ氏ノ特別寄附ニヨリテ之ヲ支辨スルコトヲ得タリ該研究所ハ「アドリアチツク」海

ニ瀕シ其内九箇ノ室ハ動植物實驗室ニシツテヘラレ第十室ハ物理學的生物學研究ニ第十一室ハ化學的生物學研究ニ、第十二室ハ特ニ顯微鏡的研究ニシツテヘラル外ニ一蒸汽船、一發動機船、一小帆船ヲ有シ更ニ新ニ協會ヨリ五萬馬ヲ支出シテ特ニ研究用特務發動機船ヲ作り更ニ研究用潛航艇建造費ノ寄附アリ

右ハ水面下五十乃至八十米ニ潜水シ探照燈ニテ海中寫眞ヲ撮リ得ル様ノ設備ヲ有スル等ナリ該研究所ニ附屬スル水族館ハ此種ヲ他ニ見サル所ニシテ外ニ植物園及ヒ博物館ヲ有ス、最初ノ購入費約十萬馬ニシテ維持費トシテ獨逸帝國ハ年二萬四千馬、普魯西王國政府ハ年七千二百馬、協會ハ年一萬五千馬ヲ支出シ外ニ雜收入一千馬アルカ故ニ合計四萬七千餘馬ノ經常費ヲ有ス、

五名ヨリ成ル評議員會(三名ハ協會ノ評議員中ヨリ選ハレ一名ハ文部省ヲ代表シ一名ハ伯林學士院ヲ代表ス)之カ監査ノ任ニ當ル一九一二—一九一三年度ニ於ケル研究者數ハ獨逸瑞露ニ互ル三十五名ニ上リ研究成績又見ルヘキモノアリ

六、其他ノ事業。A「ラヂウム」ノ動植物特ニ人類ニ及ホス作用及ヒ「ラヂウム」ト病氣治療乃至健康増進トノ間ノ關係ヲ研究スル爲協會ハ「ヒス」教授ニ年額一萬馬宛三箇年補助スルコトトナリ又B)シイリング教授カ獨逸亞非利加ニ於ケル睡眠病其他「トリバノゾーメン」ヨリ起ル諸病研究特ニ特殊ノ種痘ニヨリテ之ヲ豫防スル方法ヲ研究實驗スルカ爲亞非利加遠征ヲナスニ當リ協會ハ之ニ一

萬馬ノ補助ヲ與ヘC)又航空研究ノ必要ヲ認メテ法人「獨逸航空研究会」ニ協會ノ特別寄附金六萬馬ヲ寄附シD)「イスラム」考古學研究ノ爲メ「ザレ」教授ノ「サマラ」發掘ニ對シ五ヶ年間年額二萬馬宛ヲ補助シ(右用途監査トシテ協會ノ代表者三名、文部大臣代理一名、普國學士院ノ代表者二名、普國博物館監理所ノ代表者一名ヨリ成ル評議員會ヲ作り之ニ附屬セシム)更ニE)埃及考古學研究ノ爲ニ寫真遠征隊ヲ出スニ對シ「マイヤ」「エルマン」及「シユルツエ」ニ氏ニ二萬馬ヲ補助シF)ハイデルベルグニ於ケル「エクスキイル」氏カ生物學研究ニ三年間年額一萬馬宛ヲ補助スル等協會カ研究獎勵ノ爲ニ盡シタル所決シテ少少ニアラス

七、協會將來ノ計畫。カイザー、ギルヘルム生物學研究所ハ協會ノ諸種ノ企畫中最モ古ク最モ重大ナルモノノ一ニシテ今ヤ當事者並ニ設計確定シテ一九一三年冬期中ニ建築ニ著手セラルヘク建築費約百萬馬、經常費十四萬馬ヲ以テ之ニ充ツ實驗治療學研究所ニ隣リテ同シク「ダーレム」ニ建テラル之レハ動物學及植物學ニ渡リ各般ノ研究ニ供セラルルモノニシテ諸種ノ設備ヲ有ス、液體力學、氣體力學ノ研究ハ航空學上最モ必要ナル研究ニシテ協會ハ文部省ト交渉シ研究所ヲ「ゲツチンゲン」ニ設立スル案ヲ立テ建築費ノ一部十五萬馬經常費ノ一部一萬五千馬ヲ出シ他ハ普國文部省ニ出サシメント交渉進行中ナリ

## 第六 科學獎勵維廉協會規則

第一條 科學獎勵維廉協會ハ獨逸皇帝普魯西國王陛下ノ主裁下ニアリテ科學獎勵特ニ研究所設立維持ニ資センコトヲ目的トス

第二條 略

第三條 個人法人並ニ法人ナラサル組合、會社ハ同シク會員タルコトヲ得申込ハ協會評議員會ニ宛ツヘク評議員會ノ議決ト總裁ノ裁可トヲ經テ入會ヲ定ム

第四條 會員ハ入會金トシテ少クトモ二萬馬ヲ納ムルコトヲ要ス評議員會ノ許可ヲ經テ入會金ヲ數年ニ分ナテ納ムルコトヲ得(後略)

第五條 會員ハ會費トシテ年額一千馬ヲ納ム(納期七月一日)入會ニ際シテ一時ニ少クモ四萬馬ヲ納ムルモノハ會費ヲ免除ス

第六條 略

第七條 協會ノ機關ハ一、評議員會、二、事務委員會、三、總會ノ三ヨリ成ル

第八條 評議員ハ一、總會ヨリ(任期五年間)選舉セラレ總裁ノ裁可ヲ經タルモノ及ヒ二、會員又ハ會員外ノ専門學者ニシテ總裁ヨリ右ノ年限内評議員ニ任命セラレタルモノ、ヨリ成リ前者ハ少クト

モ十名ヲ下ラス而モ其數後者ニ超過スルコトヲ得ス後者ニヨル評議員ハ評議員在任中會員ノ權利ヲ有スレトモ其義務ヲ負ハサルコトヲ得  
第九條以下第十九條ニ至ルマテ略ス

第七 カイザー、ギルヘルム物理化學研究所規程

第一條 カイザー、ギルヘルム物理化學研究所ハ獨逸皇帝普魯西國王陛下ノ主裁下ニアリテ物理化學電氣化學ニ關スル科學上ノ研究ヲ進ムルヲ以テ目的トス

第二條 研究所ハ「ダーレム」ニ置カル事務年度ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第三條 法律ニヨル政府ノ監督ハ文部大臣ノ司ル所トス

第四條 研究所ノ機關ハ(A)資金委員會(以下單ニ委員會ト稱ス)、(B)科學評議員會、(C)研究所長ノ三ヨリ成ル

第五條 委員會ハ「コツベル」基金評議員ヨリ選ハレタル二名監督官廳ヨリ出テタル二名、及ヒ所長ヨリ成ル

所長ヲ除ク前者ノ委員ハ任期五箇年ニシテ其中ヨリ議長會計及書記ヲ選ヒ己ムヲ得サル場合ニハ書記ハ議長ヲ代理ス、重大ナル理由アルトキハ右職員就任ニ對シテ抗議取消ヲナスコトヲ得、「コ

ツベル」基金評議員ヨリ選ハレタル委員ノ任命ヲ取消ス場合ニハ監督官廳ノ許可ヲ要ス「コツベル」基金評議員又ハ監督官廳ノ官吏ニシテ委員ニ選ハレタルモノハ評議員又ハ官吏ノ資格ヲ失フト共ニ委員ノ資格ヲ失フ、研究所長ハ決議權ヲ有セス

第六條 委員會ハ研究所ノ主權者ニシテ法律上又ハ非法律上研究所ノ意志ヲ發表スル場合ニハ委員會ノ議長之ニ當ル、財産法ニ關スル謄本ノ記名ニハ議長ハ他ノ一名ノ委員ト共ニ之ニ當ルコトヲ要ス地所ノ購入賣却並ニ借款等ヲナス場合ニハ委員會ハ監督官廳ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第七條 委員會ハ議長又ハ二名ノ委員若シクハ監督官廳ノ提言ニヨリ招集セラル

第八條 研究所ヲシテ「カイザー、ギルヘルム化學研究所」又ハ其他既設ノ化學研究所機關トノ連絡ヲ密接ナラシムルカ爲メ研究所ニ科學評議員ヲ置ク、右ハ「カイザー、ギルヘルム化學研究所」ノ科學評議員ト同一ニシテ專門學者ノ代表者六名、維廉協會ノ代表者二名、研究所設立協會ノ代表者三名及ヒ「コツベル」基金ノ代表者二名ヨリ成ル、右專門學者六名中伯林學士院ハ二名ヲ指名シ月沈原ニ於ケル王國科學會「ライプチヒ」ニ於ケル同上、「ミュンヘン」ニ於ケル學士院並ニ伯林大學ノ四者ハ各一名ヲ指名ス、評議員ノ在職年限ハ五箇年、兩研究所ノ所長ハ科學評議員會ニ出席シテ議事ニ參與スルノ權ヲ有スレトモ決議權ヲ有セス

第九條 科學評議員會ハ研究上ノ相談ニ與リ研究上所長ノ計畫ヲ遂行スル爲ニ助力ヲ加フ

第十條 科學評議員會ハ委員會、監督官廳及ヒ所長ノ三者何レカニ於テ必要ト認メタル場合召集セラレ但シ第十一條及ヒ第十八條ノ場合ヲ除ク、科學評議員會ノ決議ハ議長ニヨリテ行ハレ書面ニテ達セラレ

第十一條 研究所長ハ政府ノ直接ナル官吏ナリ其任命ハ官吏ニ關スル夫々ノ規程ニ照ラシテ行ハルレトモ科學評議員會ノ鑑定的提言及委員會ノ意見ヲ参照ス罷免ノ場合モ亦之ニ同シ

第十二條 所長ハ豫算ヲ超過セサル範圍内ニ於テハ其欲スル所ノ研究ヲ行フコト全ク自由ナリ即チ其研究題目ノ選擇實行ニ就テハ何等ノ制限ヲモ受クルコトナシ所長ハ規程並ニ委員會ノ決議ニヨリ研究所ノ直接管理(研究所ニ屬スル地所建物業具ノ監理)ニ當リ財政ヲ處辨ス委員會ハ何時タリトモ所長ノ管理ヲ検査スルコトヲ得、所長ハ其委任セラレタル管理事務ノ範圍内ニ於テ法律上研究所ノ代表權ヲ有ス、本條ニアル所長ノ行爲ニ對シテハ政府官吏ノ服務規程ヲ適用スレトモ監督官廳ハ處分ニ先チ委員會ノ意見ヲ聞キ委員會ハ當局ニ申立ヲナスノ權ヲ有ス

第十三條 研究所管理ノ爲ニ所長ノ代表者ヲ置ク場合委員會ハ其議ヲ定メ監督官廳ノ許可ヲ仰ク所長代理者ノ任命ハ監督官廳ノ許可ヲ經テ隨時取消スコトヲ得

第十四條 所長ハ其研究ヲ遂行スル爲ニ共同研究者(助手)並ニ中位下位ノ役人ヲ任命シ又ハ罷免ス解雇通知期限ハ三箇月(即チ任命ノ場合ノ契約書ニ解雇セントスル月ノ三箇月前ニ解雇ノ通知ヲナ

スヘキ旨記載ス)若クハ之ヨリモ短シ、共同研究者ノ場合ニハ四月一日又ハ十月一日ヲ限度トスル半年ヲ以テ解約通知期トス(即チ四月一日解約セントスレハ前年ノ十月一日前ニ通知スルコトヲ要シ十月一日ニ解約セントスレハ其年ノ四月一日前ニ其旨通知スルコトヲ要ストノ意)若シ所長ニシテ之ト異ナル契約ヲナサントスルトキ又ハ契約ヲ二年以上繼續セントスルトキハ二年毎ニ更ニ委員會ノ承諾ヲ經ルヲ要ス

第十五條 所員以外ノ獨立研究者カ其研究ヲ遂行センカ爲ニ研究所ノ設備ヲ使用セントスルトキハ所長ハ委員會ニ諮リ之ヲ收容スルヤ否ヤヲ決ス收容セラレタル獨立研究者ヲ追出ス場合モ同シ獨立研究者ハ其題目ヲ選ヒ研究ヲ遂行スル上ニ何等ノ制限ヲモ受クルコトナシ

第十六條 所長ハ共同研究者、中下役人ヲ監督ス獨立研究者ニ對シテハ家權(Hausrecht)ニ依リ警告スルコトヲ得

第十七條 所長、共同研究者、又ハ獨立研究者カ研究所ノ實驗機關ヲ用ヒテ爲シタル有利ノ發見發明ハ研究所ト當人トノ間ニ結ハレタル契約ニヨリテ處分セラル委員會ハ此契約ノ權利ヲ捨ツルコトアルヘシ

第十八條 次年度ニ於テ經常費ノ増加ヲ得ントセハ所長ハ詳細ナル理由ヲ附シテ豫算ヲ作ル、殊別ノ増加ヲ要求スル場合ニアラサレハ研究施行ニヨリ生スヘキ費用ノ總額ヲ申出ツ

委員會ハ豫算ヲ定ム、委員會ノ定メタル豫算カ所長ノ提案ニ異ナルトキハ監督官廳ハ所長ノ申出ニヨリ科學評議員ノ意見ヲ参照シテ豫算ヲ檢査シ且ツ最後ノ決定ヲ與フ

豫算中所長カ直接研究ノ爲ニ要スル金額、特ニ共同研究者ヲ收容シ役人ヲ任命スル爲ニ定メラレタル金額ハ所長ノ自由ニ處分シ得ル處ニテ其額ハ豫算査定ノ場合ニ委員會之ヲ定ム

第十九條 會計ハ委員中ノ會計掛ニヨリテ監理セラル支拂ハ所長ニ委任シアル範圍内ノ分ハ（前條參照）所長之ヲ行ヒ其他ノ支拂ハ委員會ノ議長之ヲ行フ

第二十條 豫算超過ノ場合ハ委員會ノ承諾ヲ要ス所長ノ自由ニ委任シアル分ノ内ニテ或ル項目ニ於テ豫算ヲ超過スルトキ他ノ項目ニテ節約シテ之ヲ補フコトヲ得

第二十一條 委員會ハ會計掛ノ決算ヲ檢査シ之ヲ解任ス此場合會計掛ハ投票權ヲ有セス

第二十二條 毎年四月所長ハ前年度ニ於ケル重要事項ニ就テ報告書ヲ出ス委員會ハ右ノ報告書ニ基ツキ研究所ニ關スル年報ヲ作成ス

第二十三條 豫算、決算及年報ノ寫シ及研究所ヨリ出シタル論文ハ遲滯ナク委員會ヨリ、「コツベル基金」評議員會宛及監督官廳宛ニ提出ス

第二十四條 委員會ノ議長ハ議事日程ヲ付シテ委員ニ招集狀ヲ發シ會議ノ議長トナル、議決ハ議決權ヲ有スル委員ノ半數以上出席スルニアラサレハ有效ナラス遲滯ヲ許ササル場合ニハ議長ハ書面ヲ以

テ決議ヲ採ルコトヲ得、議決ハ特ニ規定セラレタル場合ノ外出席委員ノ多數決ニヨル、賛否同點ナル場合ハ議長之ヲ決ス特別ノ場合議長議決ニ加ハラサルトキハ年長者之ヲ決ス

書面ニヨル議決ニハ議決權ヲ有スル全委員ノ多數決ニヨリ其他前記ニ據ル

會議ニハ書記又ハ他ノ一委員ハ議事録ヲ作ル議事録ニハ議長及他一名ノ委員ノ記名ヲ要ス、議事録ニハ議題及決議ヲ記録ス若シ自己ノ投票ヲ特ニ議事録ニ載録センコトヲ請求スルモノアル場合ニハ之ヲ載録スレトモ其理由ヲ載録スルコトナシ、理由ノ載録ヲ欲スルモノハ議事終了後二十四時間以内ニ書面ヲ以テ其理由ヲ提出スヘシ然レハ右書面ハ議事録ニ添附セラル

前記ノ規程ハ科學評議員會ノ議長選舉ニモ適用セラル但此場合全員ノ三分ノ一以上出席スルトキハ決議ハ有效トナル

第二十五條 委員並ニ科學評議員ノ新任命、間ニ合ハサル場合ハ前任者ハ後任者ノ定マルマテ其ノ職ニ留マル年度ノ中途ニテ委員ニ缺員ヲ生スル場合ニハ其ノ年度ニ對シテ新ニ補缺任命ヲナス、若シ新任若シクハ第五條並ニ第八條ニヨル選舉カ猥リニ遲延スルトキハ警告ノ後相當ノ處分權ハ監督官廳ニ移ル

第二十六條 「コツベル基金」ノ廢セラレタル場合ニハ基金評議員會ノ權能ハ監督官廳ニ移ル其ノ評議員會カ警告ニ逆ヒ其規程上ノ權能ヲ實行スルコトヲ肯セサル場合モ同シ

コツベル基金規程第六條記載ノ年利子三萬五千馬(研究所經常費ノ一部トシテ毎年出金セラルル)カ  
盡キタル場合「コツベル」氏又ハ其相續者若クハ基本財團カ更ニ引續キ同額ノ出金ヲナササレハ基  
金評議員會ハ研究所委員ノ内ヘ唯一人ノ代表者ヲ指命スルノ權ヲ有ス(三萬五千馬ヲ出ス間ハ二名  
出スコトヲ得レトモ然ラサレハ一名ニ減セラルトノ意)

第二十七條 研究所閉鎖ノ場合ニハ殘留セル財産ハ普魯西國國庫ノ有トナル國庫ハ之ヲ研究所設立ノ  
目的ニ相當スル使途ニ向ク  
(終リ)

大正三年四月廿七日印刷  
大正三年四月廿九日發行

### 農商務省商工局

東京市芝區濱松町一丁目七番地

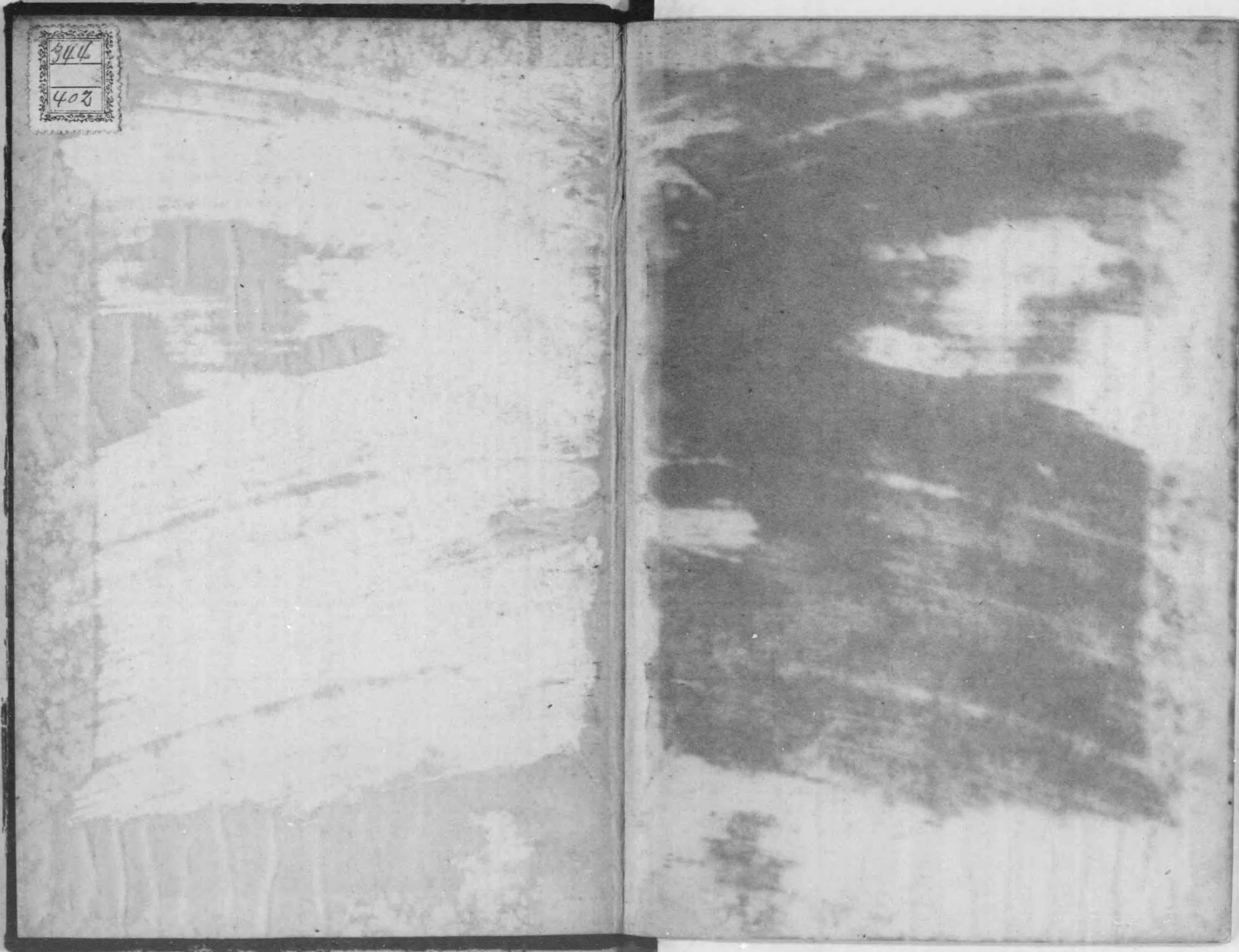
印刷者 松本 魁

東京市京橋區宗十郎町十五番地

印刷所 會社 東京國文社



344
403



終

